

旅行報告書

会派名 新政同友クラブ

会派代表者 福田 齊

平成25年4月24日

旅行者氏名	旅行者氏名
塩崎 信介	

次の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間 平成25年4月22日(月曜日)から
平成25年4月23日(火曜日)まで

2 旅行先及び用務

旅行先	目的
大分県日田市 (日田ウッドパワー発電所)	木質バイオマス発電事業について(現地視察)
// (日田十条株)	木質バイオマス発電に係る諸課題について
佐賀県武雄市 (武雄市図書館)	武雄市図書館(民間委託)の現地視察

保守系議員団視察報告書 (H25/4/22～23)

新政同友クラブ 塩崎信介

訪問先：日田ウッドパワージェネレーションズ(株)、日田十條(株)・・・大分県日田市
武雄市図書館・・・・・・・・・・・・・・・・・・佐賀県武雄市

参加議員：湊上道昭、大川末長、真野頼隆、高岡利治、田口憲雄、江口隆一、
谷口明弘、塩崎信介

第一日目：日田ウッドパワージェネレーションズ(4/22 10:00～11:00)

日本で最初の本質専焼バイオマス発電所として、日田ウッドパワー(大分県)、白河ウッドパワー(福島県)を相次いで稼働させ、その運営を担い、バイオマス発電に関するノウハウや技術を積み重ねている企業であり、今回は日田ウッドパワージェネレーションズを訪問し、事業説明～質疑～工場見学をしてきました。

発電所は大分県日田市にある製材業特区地域の中にあり、周りは製材会社が点在しています。

発電所の概要としては

発電出力：12,000Kw (10,000世帯分)

燃料：木質チップ(一般材、間伐材、サカ材) 120,000 t/y

敷地面積：約 2.4ha

運転開始：平成 18 年 11 月

建設費：45 億円

従業員数：23 人 (2 人/直 3 交代制 24 時間運転)

大分県は日本の中でも森林業が盛んなところであり、植林から製材までの流通機構が確立されており、間伐材だけでも十分な量は存在するが、適正なコストを考慮した場合、事業として成り立つためのコスト価格が安定的に可能なのか、大変危惧されるところが懸念されるとのことであった。

この発電所は固定価格買取制度が始まる前から木質チップを原料として発電事業をスタートしておりますが、事業として軌道に乗せるまで厳しい状況があったとのことでした。

現在は事業として軌道に乗りつつあるが、他事業者が参入してきたときに木質チップが安定的に供給できるのか、競争による木質チップ価格の変動が事業に影響しないか不安な状況は予想しているとのことであった。

日田十条（株）（4/22 13：30～16：00）

この会社は木材チップ及び製材大手で社長が瀬戸基彦氏、専務が息子さんである瀬戸亮一郎氏であり、今回は瀬戸専務にお話を伺った。

話の中で日本製紙八代工場とは昔から関係があり、昭和30年代に入り、薪から他燃料に変わり、薪の需要が減少し始めたころ、製材端材をチップにして製紙原料にできないかと当時の十条製紙八代工場に働きかけたところ、新聞用紙に利用が見込めるめどが立ち、チップ製造専用の機械を導入し、昭和36年に現在の会社設立につながったとのこと。

日田地域は全国有数の国産材集散地として大分県内はもとより、福岡県・熊本県・宮崎県の一部も原木集荷対象地域となっている。

素材生産、原木流通、製材加工のいずれにおいても中心となる日田地域は、原木市場が7市場、100社近くの製材工場が存在する。

いろいろな話がありましたが、木質バイオマス発電事業が林業振興に寄与するのかどうか非常に不安である、林業は補助金がたよりであり、チップ価格の競合が懸念される中で補助金なしの事業化は難しいのではないかとの結論であった。

最後に瀬戸社長の一言に林業の厳しさを痛感した。

農家はあっても林家はなし

第二日目：武雄市図書館（4/23 9：30～11：00）

この図書館は平成25年4月1日より民間企業(株)カルチュア・コンビニエンス・クラブを指定管理者として経営を民間委託した全国的に有名な図書館である。図書館の中の蔵書は20万冊あり、明るくて、落ち着いた雰囲気があって、ゆったりした気分で読書ができるようになっていた。

また館内には喫茶コーナーとして有名なスターバックスのテナントがあり、コーヒーを飲みながら、読書したり、おしゃべりができるようになっていた。

私もコーヒーを注文して飲んでいましたが、武雄市の有名人である、市長の樋渡啓祐氏のテレビインタビューが始まり、びっくりしたやら、注目されていることがよくわかった。

水俣市は日本一の読書のまちづくりのスローガンを掲げているが、読書率は上がっていないのが現実である。

予算が伴うことではあるが、目標に向かって議会としても努力していくことが大事であると痛感した。

以上

旅行報告書

会派名 新政同友クラブ

会派代表者 福田 斉 様

平成25年6月4日

旅行者氏名	旅行者氏名
塩崎 信介	

次の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間 平成25年 5月20日(月曜日)から
平成25年 5月22日(水曜日)まで

2 旅行先及び用務

旅行先	目的
千葉県木更津市役所	市庁舎建て替えについて
神奈川県横須賀市役所	予算決算委員会について

参加者：淵上道昭、大川末長、高岡利治、江口隆一、田口憲雄、谷口明弘／創水会、牧下恭之／公明党、塩崎信介

視察先：千葉県木更津市（庁舎建て替えについて）
神奈川県横須賀市（予算決算委員会について）

第 1 日目：木更津市

現在の本庁舎は、昭和 47 年に建設されて以来、40 年間経過しており、老朽化や耐震性に問題があり、さらに高度情報化への対応、バリアフリー対応等において市民サービスや行政効率の低下が見え始めたのがきっかけで庁舎機能回復に向けた抜本的な対策として、早期の新庁舎建設を目指した。

東北大震災発生時、当市でも震度 5 の地震が発生しましたが、耐震性能については、構造耐震指標が 0.2 弱であり、地震の震動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性が高いと指摘されている。

事業進行状況は平成 25 年 4 月、庁舎整備基本構想策定し、現在は庁舎整備基本計画の策定を実施している。

新庁舎建設基本理念として

- ① 地域の特徴を活かした市民に親しまれる開かれた庁舎
 - ② 市民の安心・安全な暮らしを支える庁舎
 - ③ 将来の変化に対応可能で効率的な運営のできる庁舎
 - ④ 地球環境に配慮し、ライフサイクルコストを縮減できる庁舎
- を掲げて取り組んでいる。

新庁舎建設の概算事業費は 52 億 5 千万円～67 億 5 千万円（35 万円～45 万円／㎡）、また別途費用として、移転費用、既存庁舎の撤去費用、外溝の整備費用、駐車場整備費用が必要となる。

完成予定期日として平成 28 年 7 月～10 月を目指している。

木更津市は水俣市と違って、毎年 1,000 人程度人口が増加しており、東京湾アクアライン等の社会的インフラ整備が充実し、東京近郊のベッドタウンとして繁栄しており、うらやましい限りである。

水俣市としても耐震性能に問題がある庁舎については、早急に本気で新庁舎建設に取り組む必要性を強く感じた。

第2日目：横須賀市

予算決算常任委員会設置の目的は

- ① 従来の分割付託による審査方法は、各委員会での評決結果が異なる可能性がある等の矛盾が生じることから、これを解消する。
 - ② 予算審査と決算審査を同一議員が行うことにより、総合的・一体的な審査を行う。
- ということで、平成20年10月から議長の諮問機関である「第3次議会制度検討会」を設置、検討を開始した。

平成23年3月、予算決算常任委員会運営要綱制定し、議員全体会議をスタートした。

水俣市議会でも似たような全議員による当初予算に関する審議会が全員協議会の形で行われたが、常任委員会ではなかった。

今後の課題として、平成26年度予算決算に関する常任委員会の設置に向けて協議する必要性を実感した。

以上

旅行報告書

会派名 新政同友クラブ

会派代表者 塩崎信介

平成25年10月9日

旅行者氏名	旅行者氏名
福田 齊	

次の用務のため旅行しましたので報告いたします。

- 1 期間 平成25年10月2日(水曜日)から
平成25年10月5日(土曜日)まで

2 旅行先及び用務の概要

旅行先	目的
沖縄県那覇市役所	庁舎建てかえについて
沖縄県久米島町 (海洋深層水研究所)	海洋温度差発電について
沖縄市役所	庁舎建てかえについて
名護市役所	産業支援センターについて

H25年10/2～10/5 新政同友クラブ行政視察(報告)

新政同友クラブ

日程と研修項目

10/2(水) 那覇市役所13:30～

研修項目「庁舎建て替えについて」

○ 新庁舎建設に向けての経緯

- 1、昭和63年4月に「新庁舎建設基金」を制定
- 2、平成18年各調査項目に従い既存庁舎の調査等を実施
- 3、平成19年から20年にかけて審議会の諮問、市民ワークショップを開催
- 4、平成21年に仮庁舎建設
- 5、平成21年から22年にかけて、解体工事並びに新庁舎の建設に着手
- 6、平成24年12月完成し移転、平成25年一月からの新庁舎供用開始となった

○ 建設の7つの柱となる考え方について

- 1、市民の安全、安心な暮らしを支える拠点となる庁舎
- 2、地球環境に配慮した庁舎
- 3、人に優しい庁舎
- 4、市民サービス効率の向上
- 5、市民協働の場となる庁舎
- 6、将来の行政需要に対応できる庁舎
- 7、市民の愛着が持てる庁舎

○ 事業費について

- 1、総事業費約89億円 財源として建設基金約36億4千万円、地方債その他で52億6千万円である

10/3 久米島 海洋深層水研究所13:00～

研修項目「海洋温度差発電について」

- 設備の仕組みは海水温度の異なる、深層水と表層水を設備に取り込み、アンモニアを使った熱交換器に循環させ、気化した蒸気でタービンを回すしくみである。当面は性能試験を続けながら、将来は1MWを越える大規模な設備の導入を進める計画である。

※ 考察 水深の深い沖縄の海洋環境で可能な設備である。更なる技術の進歩によって実用化が更に進むであろうと感じた。

10/4 名護市 産業支援センター9:40～

研修項目「名護市支援センターについて」

○ 市街地の活性化や新規の雇用創出、起業家育成支援を目的に建設されている。センターの管理運営を名護市の商工会が行っている。

※ 考察

行政と商工、支援する支援委員が同一の建物に同居して起業支援をおこなっているが、そういった人員の配置によって満足しがちな傾向を現場に感じた。支援センターの本来の役割と目的が違っているようにも感じた。

以上

旅行報告書

会派名 新政同友クラブ

会派代表者 塩崎信介

平成26年3月26日

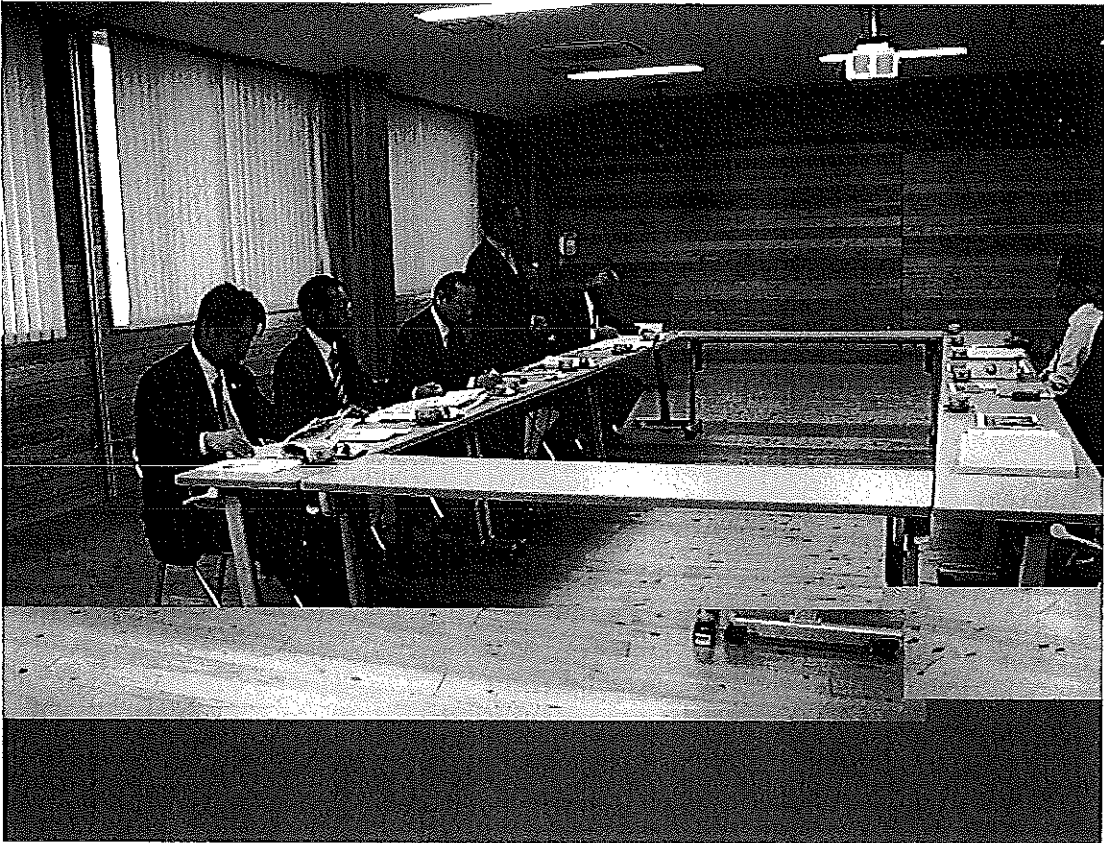
旅行者氏名	旅行者氏名
塩崎信介	

次の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間 平成26年3月25日(火曜日) 1日間

2 旅行先及び用務

旅行先	目的
上天草市松島庁舎	窓口業務等の民間委託について



参加者：瀨上道昭、真野頼隆、大川未長、高岡利治、谷口明弘／創水会、塩崎信介

視察先：熊本県上天草市（窓口業務等の民間委託及び庁舎建て替えについて）

上天草市は平成 16 年 3 月 31 日、大矢野町、松島町、姫戸町、竜ヶ岳町が合併して誕生しました。市のほぼ全体が雲仙天草国立公園に含まれ、日本三大松島にあげられる松島の風景や竜ヶ岳・白嶽をはじめとする九州自然歩道からの願望など景勝地として有名な所です。

「庁舎建て替え」

建て替えが実施されたのは、上天草市松島庁舎で平成 24 年 7 月 28 日～平成 25 年 2 月 28 日の期間で、総事業費約 1,204 百万円（庁舎建設費約 953 百万円）です。

財源として、林業・木材産業振興施設等整備事業交付金約 344 百万円、合併特例債約 411 百万円、庁舎建設等基金 100 百万円、一般財源役 349 百万円です。

職員の方に案内していただきましたが、3 階建て天井以外は木の香りがする木材を使った壁や床になっており、靴ばきで歩くのが申し訳ないような気持ちのよさを感じました。

「窓口業務の民間委託」

背景として、少子高齢化、景気の低迷、市税等収入の減少、多様化する住民のニーズ等があり、平成 23 年度から 3 か年計画で第 2 次上天草市行政改革実施計画を作成、行政サービス改革の中で民間活用・民間委託の推進を掲げてきた。

現状の問題点として、

- ① 近年、臨時職員等が増加し、その労務管理に携わる職員の業務が煩雑・複雑化している
- ② 各課の業務格差が広がる一方である。
- ③ 軽減策を検討する必要がある。

が上げられる。

そこで、業務負担が少ない市民窓口業務について民間委託推進委員会で協議した結果、プロポーザル(提案型)公募を行い、5 社によるプレゼンテーション実施し、業者を決定した。

平成 25 年 4 月よりスタートして 1 年が経過したが、順調に推移している。

効果として、業務の効率化が進んだ以上に、市民サービスの維持向上、職員の意識改革に寄与してきた。

水俣市は接遇の面でも職員の意識改革が進んでいないのが現状であるが、民間委託することで、経費削減、接遇向上につながれば、市民サービス向上に貢献できるかもしれない。

以上